



(登り窯遺構の見学、分科会風景
及び町家での説明会風景)



分科会主旨

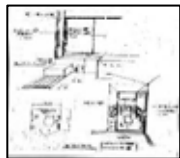
住民の高齢化等により空き家が増加している六原学区に出向き、産学公と地域が連携する「空き家再生プロジェクト」の取り組みや、高齢者支援や防災のまちづくりを通して「住み続けたいまちづくり」に取り組む自治会活動を視察した後、岡山県女性部会員による、地域で住み続けられるための『手すりの会』の活動報告や、参加の方々の各地域での取り組みを伺いながら、高齢化・空き家化が進む地域でのコミュニティの再生・再構築について、考察を深める。



活動報告 (あじき路地及び階段で繋がる道)

コメンテーター 中山裕里香 (岡山県建築士会)

平成 11 年に発足し、今年で 11 年目を迎えるボランティア団体「手すりの会」の活動紹介。建築士・工務店・医師・看護師・OT・PT・ケアマネジャー・福祉用具選定相談者・教員・学生などの異業種メンバー（会員は 100 名を超える）が集まって、**住み慣れた自宅で住み続けられるように**、高齢者・障害者の 1 人ひとりの住宅改修に対して事例検討を行い、要請があれば実際に改修も手掛ける活動について、住宅改造相談表や具体的な事例検討の様子を用いて紹介いただいた。



(提案図面)

参加者自己紹介

各県ごとに参加者の自己紹介と活動紹介。高齢化対応関連の活動や被災地と連携した活動などが報告なされる中、福島からは原発で一挙に高齢化が進んだとの報告もあった。



G 分科会 「高齢社会」

司会 河内美代子 (岐阜県建築士会)

アシスタント 吉田比呂子 (京都府建築士会)

畑 正一郎 (京都府建築士会)

下川 滝美 (岐阜県建築士会)

出席者 44 名(内、京都スタッフ 6 名)

FW と意見交換

路地・町家・長屋の多い、かつて陶芸の職人町だった六原学区を見て歩いた。ここには清水焼の登り窯の遺構、芸術系学生が住み始めた「まか通」や若手芸術家を応援する「あじき路地」などもある。参加者に自由に書いてもらった感想や質問などをもとに講師(京都造形大学の関本教授、六原自治連合会事務局長の菅谷氏)も交えて意見交換を行った。



問題点：路地が狭いので火災などが心配という防

災に関する意見や、石畳の路地は風情はあるが高齢者が多い地域だから大変ではないか、とか買い物はどうしているのかと言った高齢化対応や日常生活に関する意見や、町の色がバラバラであると言った景観に関する意見が多く出された。火災に関しては 5 年間、無火災の実績があり、自主防災会が機能していると報告があった。

提案事項・改善点：街角にベンチを設置するなど高齢者への配慮が多く提案された。デザインコードをもっときちんと作るなど街並への提案が出され、仙台では景観条例で派手なカラオケ屋を撤去させた事例紹介があった。登り窯を清水焼発祥の街の「お宝」として活用する案がいくつか出された。「あじき路地」に関する感想は多く、学生や芸術家を巻き込むなど空き家対策の活路となりうる。

まとめ

住み続けたい町づくりを目指すには、地域の問題に正面から取り組むリーダーの存在が不可欠。コミュニティの再生・再構築には、力強い指導力とそれをサポートする人々の存在が重要であり、六原にはその人材とメニューがあり、今後が楽しみである。